

第 24 回鎌倉市観光基本計画進行管理委員会会議要旨

日時 平成 27 年 8 月 19 日（水）14：00～15：30

場所 鎌倉市役所本庁舎 2 階第一委員会室

出席者：古谷委員長、中根副委員長、鷺尾委員、小林委員、藤川委員、八尋委員、奥野委員

事務局：松永部長、小澤担当課長、山戸課長補佐、尾崎係長、齋藤職員

傍聴者：2 名

議事の概要 1 開会

2 審議事項

(1) 鎌倉市の観光事情〔平成 27 年度版〕について

3 その他

4 閉会

1 開会

2 審議事項

(1) 鎌倉市の観光事情〔平成 27 年度版〕について

事務局から鎌倉市の観光事情〔平成 27 年度版〕の主な修正事項と次期観光基本計画の策定に向けた流れについて説明を行った。また、今年度開催予定の観光振興シンポジウムを進行管理委員会と推進委員会の両委員による意見交換の場とするのはいかがでしょうかと提案を行った。

(委員) 62 ページの一番下の部分で、市民満足度の指標が得られなくなったことは好ましくない状況であると追加してもらったが、行政側としてここまで書いても大丈夫か。趣旨としては、鎌倉市観光基本計画の基本理念である「住んでよかった、訪れてよかった」の「住んでよかった」という部分の指標として、市民満足度は重要である、ということなので、そういう表現を加えた方が、なぜかという理由になる。

(事務局) 評価報告書にあえてこういう記述をしたのは、あくまで進行管理委員会として、第三者的立場から評価してもらうものだからである。そのため、この記述に関して違和感はない。なお、このご指摘については、来年度以降、これを復活できるよう所管課に申し入れをしている。

(委員長) 統計を取るかどうかだけの話ではない。「住んでよかった、訪れてよかった」の「住んでよかった」は市民の満足度、「訪れてよかった」は観光客の満足度とすると、この 10 年間で観光客の満足度は、6 割程度のところから 8 割程度のところまで伸びてきた。それは、よく見ると市民の満足度と同じレベルまで伸びてきたと評価出来るが、それ以上の伸びは見せていない状況である。これを市や市民がどう感じているかが重要で、市として、満足度が 8 割の状況で構わないのであれば、もう統計を取る必要はないかもしれないし、毎年は無理でも数年に一度取ればいいことかもしれない。そこの考えがきちんと反映されているかどうかだ。

(委員) 指標については、今までのものを踏襲すべきだとは思っていない。鎌倉市にふさわしい指標を次期観光基本計画の策定を行う中で、議論して考えていけば良い。

(委員長) この10年間で、「住んでよかった、訪れてよかった」がどのくらい達成されているのかについては、66ページにもう少し記載があっても良い。

(事務局) 先程、市民満足度の指標を来年度以降復活するよう申し入れていると話したが、平成27年度から復活してもらうよう申し入れている、という誤りであった。その後の次期観光基本計画の指標については、また新たに検討をしていく。

(委員) 64ページに(仮称)鎌倉歴史文化交流センターに新たな観光と交流の拠点として期待するという旨の記述があるが、教育委員会の文化財課からは、この施設は教育施設であって観光施設でないとされたので、この書きぶりはどうなのか。

(事務局) 文化財課の立場からすると、教育施設ということかもしれないが、教育施設でも体育施設でも観光的な側面があれば、観光施設として捉えている。なお、この施設については、オープンにあたって、観光的な側面も含めた打合せを文化財課と行う予定となっており、教育施設というお答えもあったかもしれないが、これについては、そうした動きとなっている。

(委員長) 観光のガバナンスのあり方として、そのガバナンスの主体が様々な分野の施策を進めていくのが望ましい。66ページなどの観光の推進といった部分で、鎌倉市ならではの観光の推進というときに、関係部署と連携した観光ガバナンスのあり方については、これまで取り組んできたが、まだ不十分などころがあるので、改善の余地があると加えた方が良い。

(委員) 観光は縦割りの切り口ではなく、複合的に進めていくものであり、行政の仕組みに当てはめようとするのではなく、実態に合わせていかに行政がガバナンスしていくか、という部分を触れてほしい。商工会議所で実施している鎌倉観光文化検定も観光と文化を一体として捉えており、観光と文化と歴史が一体となっているということを前提にここでも触れていった方が良い。

(委員) 今の指摘については、68ページの「7 地域が一体となった観光振興の推進」の最後の文章に「市役所内部の横断的な組織の確立」と記述はある。先程の(仮称)鎌倉歴史文化交流センターの話については、64ページの部分に「歴史教育とともに」と追加をすれば良い。

(事務局) ご指摘の点は修正する。なお、「市役所内部の横断的な組織の確立」については、例えば、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、市の経営企画課で庁内の横断的な組織を編成する動きがある。

(委員長) それであれば、もう少し積極的に記述しても良い。

(委員) 県も組織改編をしたところだが、これはなかなか難しい。鎌倉は、商工業労働の中の観光となっているが、観光の関連する分野は広いので、計画を策定していくにあたっては、各部局横断的な観光推進という視点が必要である。68ページに「実行力のある新たな組織を立ち上げるなど」と記述があるが、具体的なイメージはあるか。

(委員) 8ページの推進体制のところ、推進協議会の下に個別検討部会が設けられており、ここが母体となるイメージなのではないか。

(委員) いま国でも日本版DMOの動きがあるが、そうしたことまで見据えて記載すべきか。

(委員長) そうした概念自体が最近のものであるが、推進協議会はもともと連絡協議会的なものであった。市などがこれをどうマネジメントしていくかが大事であり、市の現状の取組みを踏まえて、今後の課題として書くのが良いか。

(事務局) 先程お話のあったとおり、推進協議会の下に設けられている個別検討部会にて組織していくという形になっている。

(委員) 国が新しいように DMO と言っているが、従来の横断的なまちづくりの機能を持っていかなければならない、という話である。また、DMO だけでなく DMC が重要であり、個別検討部会から派生して積極的な動きがあると望ましい。

(委員) この 10 年間で観光を取り巻く状況が変わったことを書く必要がある。少し前はスマートフォンの普及は想像になかったし、IT の発展により観光の概念が変わってきたことは記述した方が良い。また、ここには修学旅行のことが書かれていないが、鎌倉の役割として、日本の歴史や文化を学ぶ教育の迎え入れの場であるという部分の記述があると良い。推進体制の話では、推進協議会が機能しなかったことは誰もが認めることではないかと思っていて、新たな組織を立ち上げるというよりも、この協議会の中でメンバーを絞り込んで、そこで出された課題を推進委員会に引き継ぐということがあっても良い。

(委員長) 推進協議会が上手くいかなかったのは、観光に関するマネージャーがいなかったからだと感じている。

(事務局) 先程の 3 点ほどあったご意見については、66 ページの「今後に向けての課題・提言」に盛り込みたいということか。

(委員) そのつもりで意見した。

(委員長) 特に観光を取り巻く状況が変わったことは、重要な意見である。

(委員) 今回「藤沢市」の記述が入ってきたことは進歩だと思う。テレビ番組でも鎌倉の観光に江ノ島は深い関係でよく紹介されている。アクションプランの取組み状況の部分で江ノ島電鉄の実績がないので、これはぜひとも追加してほしい。市民満足度については、90%の目標に対して 80%程度しか達成できていない原因は考えるべきである。クロス集計を見ると、若い世代と 60 歳以上の世代の満足度が非常に低いことがわかるので、その世代の満足度をあげるような動きを積極的に行っていたほうが良い。この意見は何度かお話しているので、引き続き、検討をしてほしい。

(委員) 現在組織されている推進協議会は、計画の実行部隊なのか。

(事務局) 参加者は観光関係主体なので、それぞれが観光施策の実施主体として期待をしているが、推進協議会自体は実行部隊ではない。また、先程の江ノ島電鉄の話は、照会を行ったが、回答を得られていないため、記載していない状況である。改めて、回答を依頼する。

(委員) 事業として実行する事業化検討部会の位置づけとして、個別検討部会には期待したい。

(委員長) 立ち上げ時の想いとしては、マネージャーを付けて動かしてもらイメージであったが、これはあまり理解されなかった。その時点では、鎌倉市には観光のマネージャーが必要なかったということであった。

(委員) 推進体制には、個々に何をしてほしいのかを明確にしておくことが大切である。

(委員) 先程の江ノ島電鉄のお話で、照会して回答がなかったから記載していないということであったが、いかに行政が積極的に情報収集して拾い上げていくか、その努力が必要である。

(事務局) 江ノ島電鉄には、回答してもらうよう改めて一押しする。また、個別の課題については、それに応じた個別検討部会で検討していき、次期観光基本計画では、その点を推進体制に反映していきたい。

(委員長) 組織体制は立ち上げて終わりではなく、状況に応じて、解散や改変を行うべきである。

(委員) 8 ページに個別検討部会とはどういうものかについて、「具体的な事業が出てきた場合は、個別検討部会としてさらに詳細を検討し、実行の母体となる」というような記述を行い、そういう位置付けとしたほうが良い。

(事務局) 組織のあり方については、66 ページの「今後に向けての課題・提言」の部分に、個別検討部会のことを盛り込みたいと思う。

(委員) 推進協議会のメンバーにどういう役割を果たしているかのヒアリングをしていないのではないかと。会議をして終わりということではなく、その部分も細かく求めていくべきである。取組みについても、出来る限り把握出来るように様々な手法を考えるべきである。

(事務局) 現状としては、推進協議会は情報共有の場でしかない。今後は、これをどう機能させていくかを考えていかなければならない。

(委員) その現状を踏まえて、68 ページに反省を記載した方が良い。

(委員) 観光基本計画は、10 年となっているが、これは長くないか。県では 3 年の期間で計画を策定している。

(事務局) 計画は 10 年であるが、5 年ごとに中間見直しを行っている。見直しの期間も含め、何年が良いというご意見があれば、それは議論すべきポイントとして頂戴する。

(委員) それについては、10 年か 5 年か 3 年かという話ではない。10 年の長期の観光の展望は必要である。また、その他に 3 年であれば、実行計画としてアクションプログラムを作成するというのも必要なことである。

(委員) 推進委員会には、経営企画課の職員も同席しており、重要な施策の計画であるとわかった。推進委員会には、きちんと申し送りするべきである。

(事務局) 今回の修正については、反映させたものを委員長及び副委員長に確認の上、確定とする。

(委員) 冒頭に観光振興シンポジウムの提案があったが、推進委員会への申し送りについては、シンポジウムの場で実施するよりも別の場で設けたほうが良い。

(委員長) スケジュール的にも厳しい。

(委員) 市民に向けたシンポジウムと推進委員会へ向けた申し送りというのは、一緒には考えず、別の場で設けることが望ましい。

(事務局) あくまで提案であったので、今のご意見を踏まえ、申し送りの場については再検討する。

3 その他

4 閉会

以上